

淡路

HYOGO

霊碑で供養する新しい合同墓

神戸善光寺
永代納骨塔
供養納骨塔

永代供養、霊魂制作彫刻費込み

お問合せ・お申込み
TEL 078-851-0400

神戸市中央区花畑町1-15-3
神戸市バス高羽町バス停徒歩3分

神戸総局
神戸市中央区浪花町60
078(331)4144
FAX 078(331)4149

阪神支局
西宮市与古道町1-1
0798(33)5151
FAX 0798(35)2070

洲本支局
洲本市山手1丁目2-12

園芸療法、認知症に有効



植物とふれあう作業を高齢者や障害者のリハビリに生かす「園芸療法」の研究を続ける県立淡路景観園芸学校（淡路市）准教授の豊田正博さん（47）が、アルツハイマー型認知症患者の脳の働きを活性化させるのに園芸作業が有効であることを確認。20日に横浜市で開かれる日本老年精神医学会で、研究成果を発表する。

淡路景観園芸学校の豊田正博准教授

これまでも植物を育てることが患者の気持ちを安らげ、自信回復にもつながると考えられてきた。今回、豊田さんは県内の病院などの協力を得て、注意や判断力など認知機能をつかさどる脳の前頭連合野に園芸作業がどんな刺激を与えるかを、血流測定装置を使って調査した。認知症患者25人、健常者20人の脳の血流を調べたところ、認知症患者は健常者と同様、①手を使って土を混ぜる②土を鉢に入れる③鉢に花を植える——のすべての行為で血流が上がった。特に、①の行為で脳が活発

研究成果を学会発表へ

に活動することが分かった。豊田さんは「土を混ぜる作業は視覚と触覚を同時に働かすので大きな刺激になる」とみる。

一方、花の位置を決めたり、適度な土を盛ったりと、より複雑な判断力が求められる③の行為では、①ほどの脳の血流が認められなかった。認知症の人が込み入った作業をする際には、過去の作業記憶を呼び起こすなど情報処理に時間がかかるため、比較的緩やかな血流になるのではないかと分析する。

また、道具などを持たずにただ、手を動かすだけでは血流反応はほとんどなかった。これらの結果から豊田さんは「脳の働きが活性化するには、園芸作業のように行動自体に意味を持たせ、反復作業をすることが重要。園芸療法を指導する側も、作業の難易に合わせて時間や内容を工夫する必要がある」と話す。

血流測定装置を付けて花の鉢植え作業をするお年寄り＝豊田正博准教授提供（画像を一部修正しています）



軟式野球県大会優勝
一宮クラブ選手
淡路市長を訪問

5月に姫路市内などで開かれた「第26回全日本少年軟



生き物は

ニホンイシガメ(上)下イシガメは河川の上流部をホームグラウンドとするカメで、低山地の多い淡路島にはたいてい生息する。おびえさせな

求愛

たところ、大きな反響があった。直が普通に生息している淡路島の風景、感想をいただいたほか、たくさんの方でもコメントを拝見した。このことは人工的でない、あたたか。特に目を引いたのは、「淡路島へ行ってイシガメを見たい」というもので、実際に愛知や大阪などから見に来た人も多い。

イシガメは決して珍しいカメでは

NPO法人
ネイチャー・アソシエーション